学校だより

３月号
令和６年３月１２日
横浜市立田奈中学校

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/tana/

学　校　教　育　目　標　　「学び合い」　「個性」　「自立」

（１）　生きるための基本的な生活習慣・学力を身につける生徒を育てます。　【知】
（２）　自分のまわりの人とふれあい、お互いを大切にする心を育てます。　【徳】
（３）　自他の生命を尊重し、健康でたくましい体を育てます。　【体】
（４）　社会の一員として自覚をもち、自分の生き方を決められる生徒を育てます。　【公】
（５）　体験を通して自分を豊かにし、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育てます。　【開】

「はなむけ」の意味

校長　井上菜穂子

いよいよ今日の日を迎えましたね。卒業おめでとうございます。今日、皆さんはどんな思いで過ごすのでしょうか。人生の中で、人に「おめでとう」と言われることは、そんなに何回もありません。晴れやかな気持ちで、別れを惜しみ、新しい門出を喜び合ってください。そして、今日帰ったら、ご家族にぜひ「ありがとうございました。」と言ってくれたらうれしいです。

三年生の国語の授業で、『奥の細道』を学習しましたね。「月日は百代の過客にして…」松尾芭蕉の旅立ちの場面を覚えていることと思います。
当時の旅は、今と違って「行ってきまーす」という軽いものではなかったので、知り合いやご近所の人が途中まで見送りに来て、別れを惜しみます。その際、荷物を運んであげたのでしょうか、「馬」を連れた人ともそこでお別れです。

多くの見送りの人たちと「馬」が並んで旅立つ方向へ向きます。馬の鼻を向けて並んで立つ姿が想像されます。旅の安全を祈ったことでしょう。そこから「はなむけ」＝「鼻向け」という言葉が生まれたそうです。旅人が馬に乗るとかそこまで乗ってきた馬を預けるとか、諸説あるようですが、「花向け」ではないことを知っていてください。

これからの皆さんの旅立ち、それぞれの思いをのせて出発します。私たち職員は、卒業生のこれからの道中の安全や幸せを願って、「馬」の鼻を向けて見送っていきます。

おめでとうございます。

卒業生を送る言葉

季節が冬から春へと移りかわり、新たな出会いと別れの季節がやってきました。少し寂しげだった通学路の木にも新芽が芽吹き、春の訪れを感じます。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんと共に過ごした二年間。私にはたくさんの思い出があります。みなさんは様々な場面で私たちを導き、手助けしてくださいました。

委員会活動で、意見がまとまらない時には、考えを整理し、ひとつの案にまとめてくれ、盛り上がりすぎて、話がそれてしまいそうな時には、静かにするように全体に声をかけて、会議を落ち着かせてくださいました。そんな時私は、三年生のみなさんが頼りになる存在であることを、改めて強く実感しました。

日々の学校生活の中で、私にとって特に印象深いのは、部活動のことです。入部したての一年生のころ、準備のしかたがわからず、困っていると、優しく丁寧にやり方を教えてくださいました。試合で負けて、沈んでいる私たちに「よく頑張ったね。」と声をかけ、励ましてくださったこともありました。委員会活動で練習に遅れてしまい、どこに入っていいのか戸惑っている私に、「一緒にやらない？」と気さくに声をかけてくださったことも、忘れられない思い出のひとつです。それまでは同学年としか話せず、みなさんのことを少し怖く感じていた私ですが、みなさんのほうから声をかけてくださったことが嬉しく、心強く感じられました。この時私は、みなさんとの心の距離が縮まった気がしました。

田奈中学校でのいろいろな行事は、みなさんにとっても思い出深いものだと思いますが、私にとっては、今年の体育祭で全力を尽くす姿がとても印象的でした。

応援では、一人ひとりが大きな声を張り上げ、色全体の応援を盛り上げてくださいました。自分たちの色はもちろんですが、他の色から聞こえてくる迫力ある声にも圧倒され、誰一

人欠けることのない、一生懸命な姿がとてもかっこよかったです。

このように、委員会、部活動、行事を通して、私はみなさんから多くのことを学びました。

後輩を支えること。困っている後輩を見かけたら、自分から話しかけること。技術を高めるために、顧問の先生にも自分から積極的に教えてもらうことの意味。どんな時でも、周りをよく見て、行動することの大切さ。何事にも一生懸命になることのかっこよさ。そのどれもが、三年生のみなさんが、その姿から私たちに教えてくださったことです。

しかし、そんなみなさんは、4 月からもう田奈中学校にはいません。これからは私たちが後輩をリードしていく立場になります。今はまだ、皆さんのようには、できていません。だから、もちろん不安もあります。しかし、今まで、教えていただいたことは、必ずこれからの学校生活で生かしていきたいと思っています。

3 年生のみなさん。みなさんは、これからは田奈中学校を離れ、違う環境で、違う仲間と一緒に過ごすことになります。皆さんが新しい環境でも、今まで通りにご活躍されることを、私たちは後輩として田奈中学校から応援しています。

最後になりましたが、三年生の皆さん。本当にお世話になりました。三年生の皆様のご健康とご活躍を心からお祈りし、おくる言葉といたします。

令和6年3月12日　在校生代表　小林 優生

卒業生 別れの言葉

長かった冬の厳しい寒さも和らぎ、木々を芽吹かせるうららかな風に春の訪れを感じるようになりました。

本日は私たちのために、このような厳かで晴れやかな卒業証書授与式を執り行っていただきまして、誠にありがとうございます。またご臨席を賜りましたご来賓のみなさま、ならびに井上校長先生はじめ諸先生方、そしてご家族のみなさまに、卒業生を代表して心より御礼申し上げます。

今から3年前の春、私たちはこの田奈中学校の正門をくぐりました。期待と不安が交互にやってきて、二つの感情が入り混じったような新入生らしい感情が胸の中を渦巻いていたことをよく覚えています。

中学校生活最初の1年は、コロナ禍のため思うような学校生活が送れませんでした。しかし、少しでも学校生活を楽しいものにするために、ソーダのようなキラキラした青春をつくるためにと、実行委員さんが力を尽くしてくれました。そして、その本気の努力が実を結んだ体育祭と文化祭を私たちは経験することができ、とても充実した1年間になりました。

進級した2年生5月。長野の雄大な自然に触れ、学びと友情を深めた3日間の自然教室。2日目のキャンドルファイヤー終了後の先生方からのサプライズ花火は、あいにくの土砂降り。でも、そんな雨にも負けず打ち上げられた花火は、長野の夜空に美しく舞い上がり、その美しさと先生方のあたたかさは、今でも全員の心の中に鮮明に残っていることでしょう。

初めての合唱コンクールでは、同じクラスの仲間と合唱という一つのものをつくり上げていく中で、一人ひとりが一生懸命に取り組んでいるからこそ、本気でぶつかる時もありました。しかし、ぶつかって本音で話したからこそ、仲間の思いが一つとなり、「あともう一回だけ頑張ろう」「ここ良かったからこの調子で」と励まし合いながら練習

に取り組み、最高の本番を迎えることができたと私は確信しています。

そして迎えた中学校生活最後の１年。５月には大阪・京都を観光した念願の修学旅行。２日目のタクシー観光では各班で選んだ名所を回り、京都ならではの風情ある街並みの中で、その名所でしか食べられないものを食べたり、タクシーの運転手さんの話を聞いて友達と様々な会話を交わしたりと、とても有意義な時間を過ごしました。私たちにとって人生で初めてとなったこの修学旅行は、一生忘れることのない最高の３日間になりました。

６月に行われた最後の体育祭。私は白組の応援団長を務めました。今年の体育祭は、序盤から想像をはるかに超える盛り上がりを見せ、競技中、仲間の応援に勇気づけられた人も多かったと思います。声を枯らしながら応援していた仲間もいて、あの日の応援の声は雨を止ませてしまうほどのものでした。他のチームや相手をリスペクトし、その中で自分たちの仲間を本気で応援する姿勢。赤・青・白という色の垣根を超えた体育祭への熱い思いがつくりだす一体感。あの体育祭のすべての景色が、言葉ではとても表しきれないほどすごくて、何度も何度も涙があふれそうになったことをよく覚えています。あの日見た景色は一生忘れることのない大切な宝物です。

１０月には、最初で最後の体育館での文化祭。ファッションショー、歌やダンスの発表、謎解きなど本当に盛りだくさんで、仲間の活躍を見ながら笑いの絶えない大盛り上がりの文化祭でした。後日、先生から伺った話によれば、今年の文化祭の盛り上がりは体育館が地鳴りするほどだったといいます。

楽しかった行事も終わり、私たちは３年生としての試練に向き合うべき時がやってきました。それぞれの目指す道に向けて走り続けた進路選択。行き場のないどうしようもないそんな不安に押しつぶされそうになった時もありました。しかし、そのような時に共に頑張る仲間の存在がどれだけあたたかく、心強いものだったかを実感しました。

そして入試を経てついに迎えた最後の3週間。卒業遠足、球技大会、グリーンフェスティバル。卒業が近づくにつれて混ざる寂しさが、仲間と過ごすかけがえのない時間をより思い出深いものにしていきました。

振り返れば、3年間ほぼすべての行事は雨。さらには私たちが入学した3年前はまだコロナ禍と呼ばれていた頃でした。小学校生活最後の1年をコロナと共に過ごした私たちは心のどこかで、きっと中学校生活も「コロナだから」、その一言で終わってしまうのだろう。そう思ったことがあったかもしれません。しかし私たちの中学校生活は、雨であったこともすべて忘れてしまうほどの、決して想像することのできない最高の青春の日々だったのです。

3年間お世話になった先生方。いつも優しく、時に厳しく、常に愛をもって私たちを支えてくださいました。時に反発したこともありました。それなのに、何かに行き詰まった時に探すのはいつも先生の姿で、どんな時でも私たちに寄り添い、背中を押してくださいました。私たちがここまで成長できたのは、紛れもなく先生方のおかげです。深く感謝申し上げます。

15年間一番近くで支えてくれた家族。大人と子供の狭間にいる私たちは素直になれず、幾度となく迷惑と心配をかけてきました。そんな時でも嫌な顔一つせず見守ってくれ、悩んだ時には一番の味方でいてくれた家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう。

そして3年間最高の青春の日々を共にした仲間。一人ひとりがいつも一生懸命で、楽しむ時は楽しみ、真剣にやる時はいつも真剣で、「一生懸命がかっこいい」この言葉が最高に似合う学年だったね。くだらないことで声が出なくなるまで笑ったあの時間、襲ってくる眠気と空腹と闘った授業中のあの時間、間に合わないかもと焦りながら校舎を走った移動教室前のあの時間。そんな何気ない毎日が何よりも幸せでした。楽しい時、辛い時、どんな時でもこの仲間たちがそばにいてくれたからこそ、こんなにも素敵な毎日が過

ごせて、多くの困難を乗り越えることができました。この素敵な仲間と、素敵な仲間に出会わせてくれた田奈中での3年間には本当に感謝してもしきれません。本当に、本当にありがとう。

思いは語れば尽きませんが、ついに別れの時がやってきました。私たちの生きる世界は、日々目まぐるしく変わりゆくものです。そんな世界で生きる中で、時にぶつかり、悩むこともあるかもしれません。ですが、常に感謝を忘れず向上心をもち、そして一生懸命に頑張ることができればきっと大丈夫なはずです。なぜなら私たちはこれまでも、先の見えない暗闇のような世界で、いくつもの高い壁を乗り越えて、青春という光を掴んできたからです。明日も学校に来れば大好きな仲間がいて、くだらないことで笑って、放課後には「また明日ね」と挨拶を交わし、部活の音がする。そんな当たり前の日々がもうないと思うと寂しくてたまりません。しかし、3年間培ってきた思い出や経験は、決して消えることはありません。だから、思い出と経験を胸に、前を向いてそれぞれの進む道で大きく成長していきましょう。

最後になりましたが、在校生のみなさん。本当にありがとうございました。中学校生活は本当にあっという間です。卒業を迎える時、「田奈中で良かった」そう胸を張って言える、そんなかけがえのない時間をかけがえのない仲間と共に過ごしていってください。

お別れにあたりまして、今日まで支えてくださったすべての方々に深く感謝するとともに、みなさまのご多幸と田奈中学校の一層のご発展を心よりお祈り申し上げ、卒業生別れの言葉といたします。3年間本当に、本当にありがとうございました。

令和6年　3月12日　卒業生代表　髙橋寿美乃

【2月　生徒活動報告(敬称略)】

【陸上競技部】
『関東近県新人駅伝』
２月４日(日)　会場:櫛形総合公園
男子 ６位
女子 ６位
女子１区区間賞
大会最優秀選手

『かるがもファミリーマラソン』
２月１８日(日) 会場:保土ケ谷公園
男子 ２位　 ３位　 ５位
女子 ２位　 ３位　４位　５位

【男子ソフトテニス部】
『関東近都県１年生大会』
２月１１日(日)
会場:南毛利スポーツセンター
決勝トーナメント進出

『横浜インドア』
２月１１日(日)　会場:横浜国際プール
出場

【女子ソフトテニス部】
『横浜インドア』
２月１１日(日)　会場:横浜国際プール
ベスト16
出場

【卓球部】
『神奈川県カデット卓球選手権(男子団体)』
２月 23 日(金) 会場:秩父宮記念体育館
５位

『平塚オープン中学生卓球大会(団体)』
２月 24 日(土)
会場:ひらつかサン・ライフアリーナ
優勝

【女子バスケット部】
『緑区中学校バスケットボール １ 年生大会』
２月４日(日)・2月25日(日)
会場:横浜市立中山中学校
　　神奈川大学附属中学校
第3位

【剣道部】
『神奈川県剣道連盟 緑区剣道１級審査会』
２月 11 日(日)　会場:星槎学園北斗校
１級合格 １年男女９名

『横浜市中学校剣道強化リーグ』
２月 23 日(金)　会場:原中学校
男子団体　４勝２敗２分け
女子団体 第２位

【英語部】
『アメリカ料理体験』
２月１６日（金）　会場：調理室

AET のヘイデン先生と一緒に、アメリカの定番料理である、スタッフィングとマカロニチーズを作りました。